



風廻る校庭

千歳台小学校長 寺村尚彦

万雷の拍手を

2学期もまもなく折り返しです。あんなに暑かった残暑の日々を忘れそうになるくらい、一雨ごとに気温が下がってきました。街の木々も少しずつ彩が変わり始めています。

「拍手されるより拍手する方が、

ずっと心が豊かになる。」

「人間にとっていちばん寂しいのは、何を見ても、何を食べても、何の感動もしないこと。感動をしなくなったら、人間おしまいだと思うんですね。こんな淋しいことはないと思います。」

これは、昭和の名優といわれた高倉健さんの言葉です。高倉さんは役者ですから、観客から万雷の拍手をもらうことが、何よりではないかと考えるところです。でも、「される自分よりも、自分がする相手に感動する。」ことに心を寄せているところに、「役者高倉健」のプライドを感じます。拍手は「感動したその場で、感動したことを相手に伝える。」ことです。高倉さんの残された言葉は実にたくさんあるのですが、どの言葉をとっても共通して言えることは、相手や周囲の人々への、「思いやり」「やさしさ」「尊敬」にあふれるものばかりです。昭和の名優とよばれた皆さんには、そんなエピソードに事欠きません。

月曜朝会で「学芸会はカレーライス！」という話をしました。一人一人が互いに自分の良いところを発揮し合い、作品を作り上げる楽しさや充実感を味わってほしいという願いです。体育館での練習も始まりました。台本が決まり、役割も決まり、舞台での練習も本格的になってきました。高学年になると舞台装置や小道具などを自分たちで作成することもあります。自分たちで創り上げる作品への自信も深まっていきます。

当日には「観る人も一緒になって創るのが学芸会！」ということを伝えたいと考えています。観る人が一緒になってすることが「拍手」です。子ども達の舞台は、大きな拍手で、さらに大きく成長します。大事な場面を、逃すことなく、大きな「拍手」ができるよう、両手を開けて、鑑賞いただけれるようお願いいたします。

ホームページから

9月末から10月にかけて、毎週のように校外学習に出かけました。1・2・3年生の遠足、4年生の社会科見学とプラネタリウム、そして5年生の川場村移動教室と休む間もなく出かけていました。おかげさまで、ホームページのアクセス数も随分と増え、数多くの方に閲覧していただきました。この後2学期は、4年生の遠足と5年生の社会科見学があります。その際には、また見学地より、アップしていきたいと思います。



夏休みから始まった給食室の改修工事も、おかげさまで順調に進み、11月末までには新しい厨房機器が設置。その後、様々な検査を経て3学期の給食再開に向けての準備に入る予定です。

このふた月の間子ども達のお弁当を紹介させていただきました。始めたきっかけは、6年生の中に自分でお弁当を作ってきている子がいることでした。教室を回っていると、美味しいお弁当が目に入り、画像に収めたことでした。



子ども達の学校生活の一部ではありますが、折々の様子が少しでも伝わればと思い、記事を作成していきます。